

マサバ太平洋系群の漁況と調査結果に関する情報

概 要

- ・漁業法等では、資源評価の結果、資源水準の値が限界管理基準値を下回る状態にあることが判明した場合、当該資源水準の値を目標管理基準値まで回復させるための資源再建計画を定めるものとされている。マサバ太平洋系群では、2024年漁期の親魚量が限界管理基準値を下回ったため、今後同計画の策定が検討される。本資料は、同計画の策定に向けた一助とすることを目的として、本資源の直近の漁獲状況および資源調査結果を整理したものである。
 - ・2025年漁期(2025年7月～2026年6月)の漁獲量は低い水準であった。
 - ・2025年漁期の漁獲物は0歳魚、1歳魚が主体であり、未成魚の割合が高かった。
 - ・直近の漁況から、2026年の産卵期にマサバの産卵場である伊豆諸島周辺海域に来遊した親魚は極めて少なかったと推察された。
 - ・産卵量は2023年以降、低い水準で減少傾向にあり、2026年は2005年以降で最低値となった。
 - ・2026年の北上期浮魚類資源調査における0歳魚の分布量は前年を大きく下回り、低水準であった。
- 以上のことから、今後、資源状況の更なる悪化が懸念されるため、管理措置の一層の強化を検討する必要があると考えられる。

漁獲量と漁獲物サイズに関する情報

2026年8月20日
水産研究・教育機構

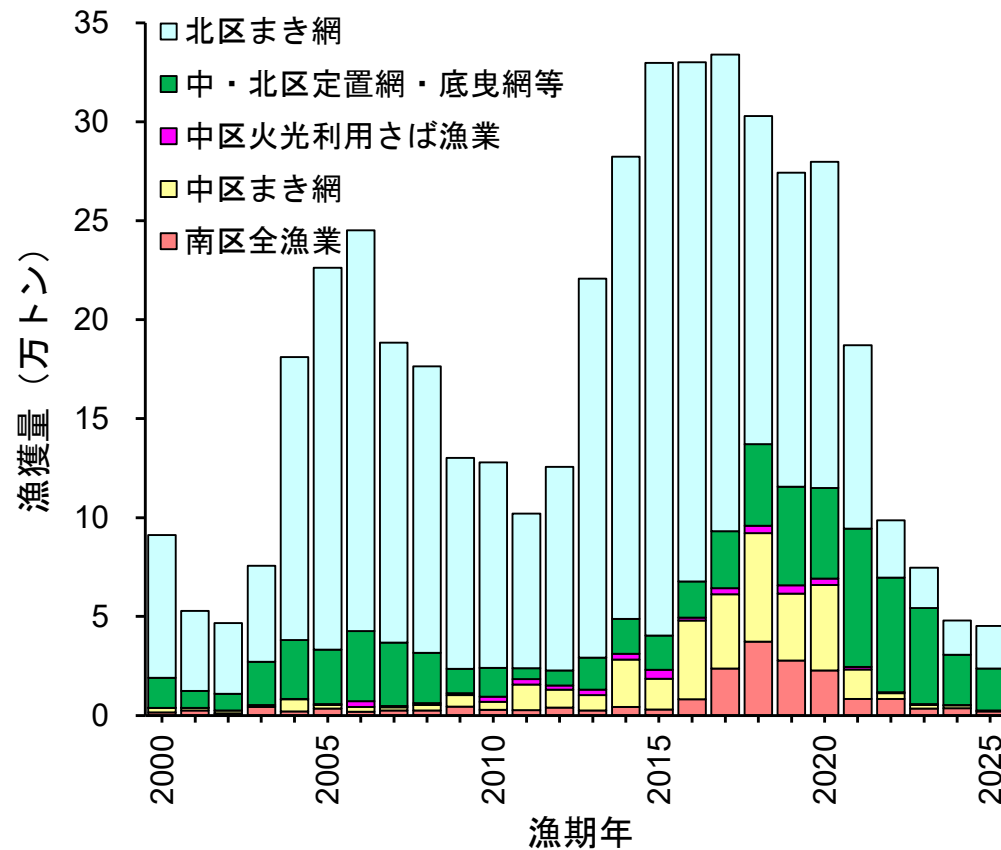


図1 太平洋におけるマサバの漁期年別漁獲量

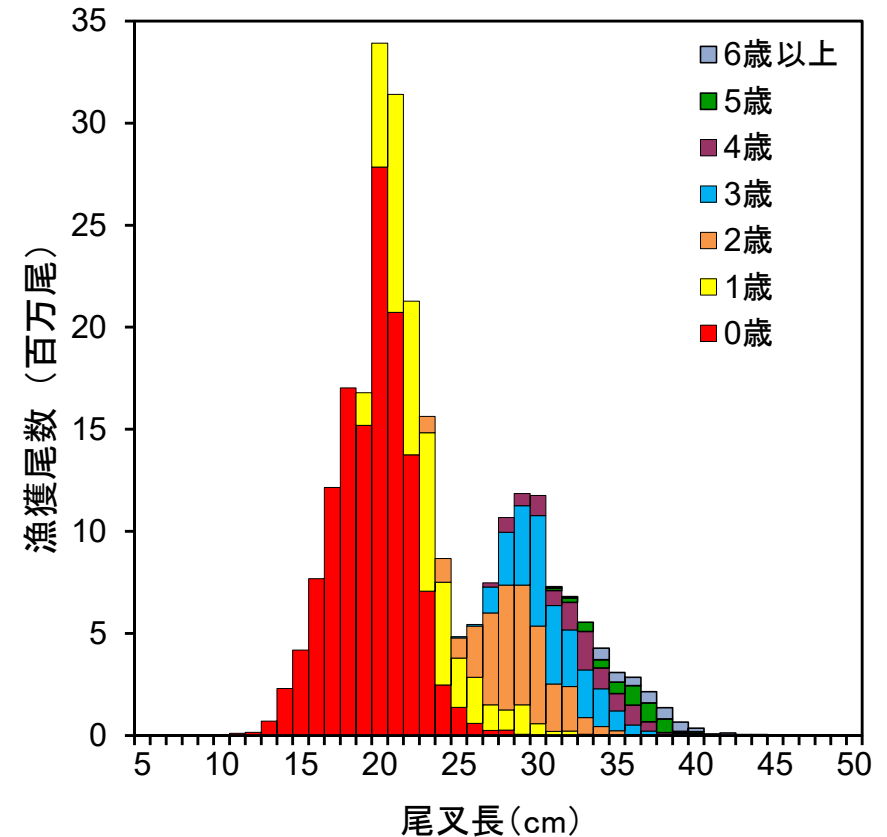


図2 2025年漁期のマサバ漁獲物の尾叉長組成

- ・我が国における2025年漁期(2025年7月～2026年6月)の漁獲量は、2024年漁期と同程度の低い水準であった。
- ・2025年漁期の漁獲物の尾叉長と年齢は、25cm台までの0歳魚、1歳魚が主体であり、未成魚の割合が高かった。

産卵親魚に関する情報

親魚量の推移と産卵場周辺海域の漁況

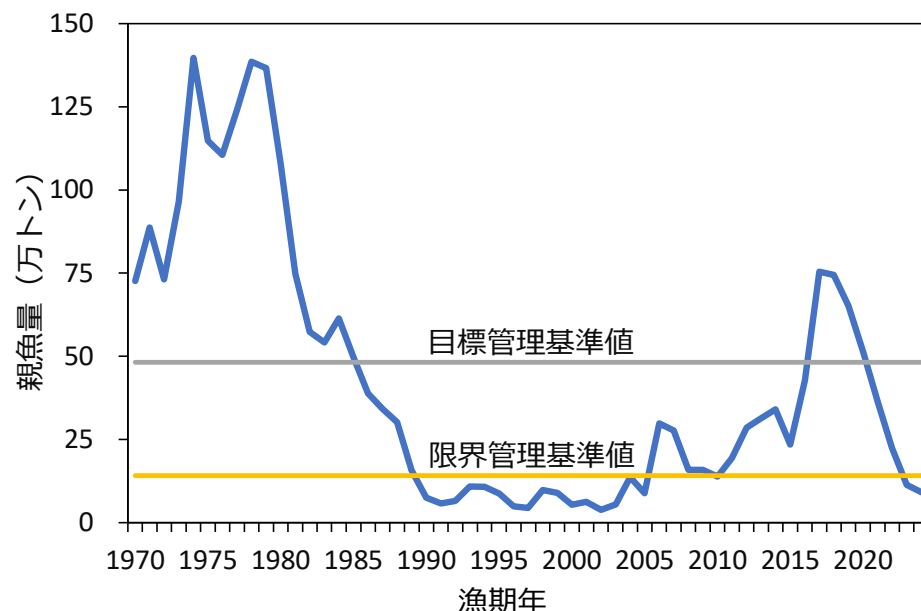


図3 親魚量の推移および管理基準値との関係

- ・親魚量は、近年では2017年漁期の75.0万トン
をピークにその後減少し、2023年(12.1万トン)
および2024年(9.7万トン)では限界管理基準値
(14.2万トン)を下回った。

(令和7(2025)年度マサバ太平洋系群の資源評価 より)

- ・伊豆諸島周辺海域における2026年6月までの
漁況から、2026年の産卵期にマサバの産卵場
である同海域に来遊した親魚は極めて少な
かったと推察された。

産卵量の推移

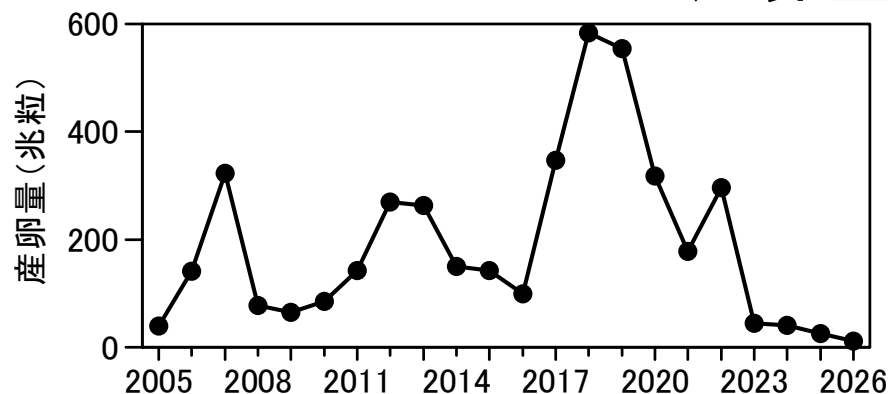


図4 太平洋側(青森県～宮崎県沖合)での産卵調査
(周年、プランクトンネット)によるマサバ産卵量

- ・マサバの産卵量は2023年以降、低い水準で
減少傾向。
- ・2026年の産卵量は12兆粒(暫定値)で前年
(26兆粒)を下回り、2005年以降で最低値。

新規加入量に関する情報

北上期浮魚類資源調査の結果(速報)

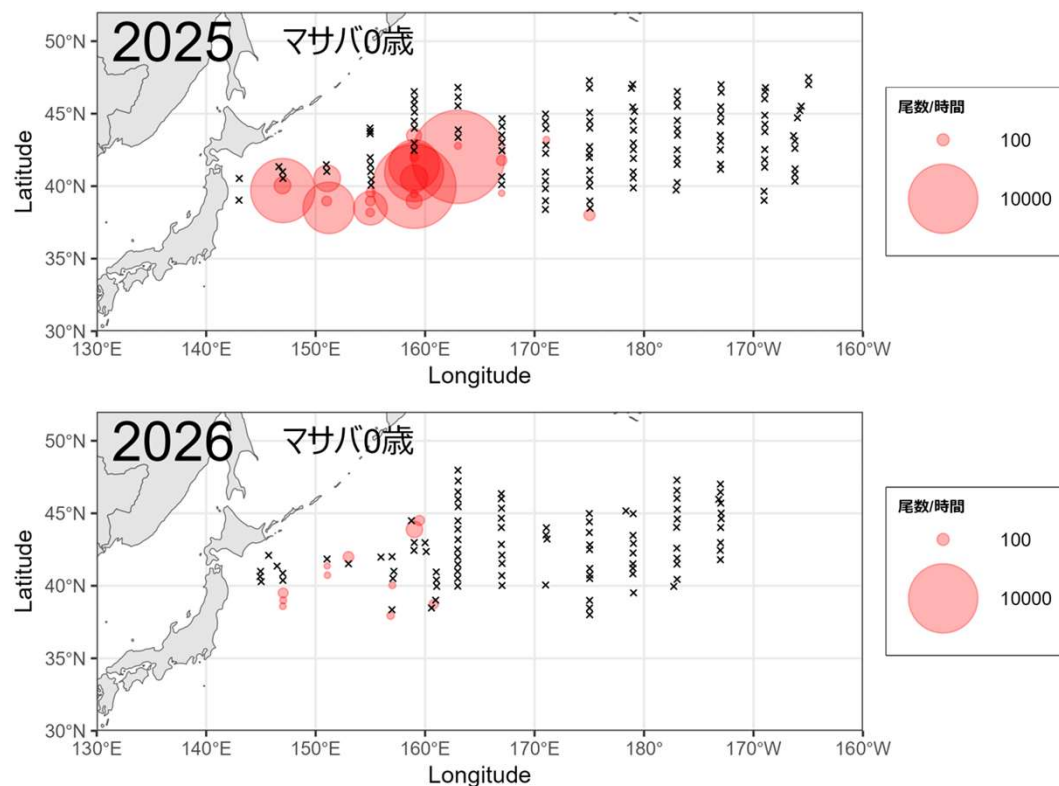


図5 北上期浮魚類資源調査(5-7月、トロール調査)によるマサバ0歳魚の分布図

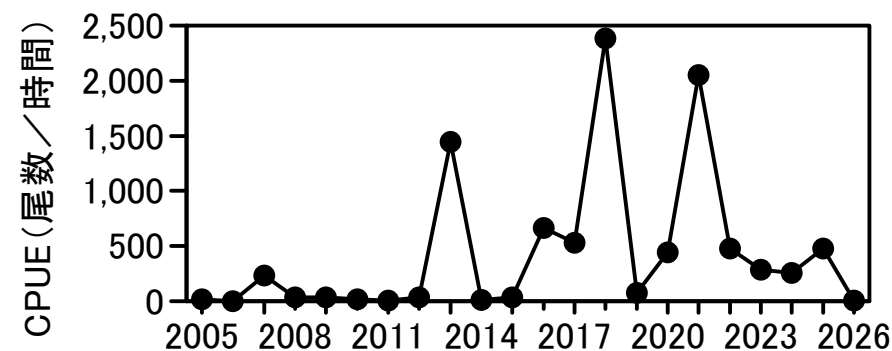


図6 北上期浮魚類資源調査によるマサバ0歳魚CPUE*

*CPUE・・・単位時間あたりの採集尾数で、調査海域の分布密度の指標となる

- ・2026年の北上期浮魚類資源調査におけるマサバ0歳魚の分布域は2025年より縮小した。
- ・2026年のCPUEは前年を大きく下回り、2012年以前に見られたような低い水準となった。

→ 2026年級群の加入量は前年を大きく下回ると考えられる。